

- ・追加・変更箇所は**赤字**で表記。改訂日付は最新のみを記載。
- ・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/07/16

改訂 2025/04/08

【Mingulay Boat Song】変更と注意事項

<曲を通じて>

- ・曲想：完全五度の和音（Hm のパートなど）がずーっと鳴っている中で奏でるイメージ。
これが曲のベースになるので、自パートがその担当に戻る時は正確にその音を出す。
- ・演奏方針：譜面上の Hm—はタイでつながられていないので、**音符のパターンで Hm Hm と刻む（アクセントをつけて突く）**。バグパイプが Hm----となっているというよりも、刻んだ方がボートを漕ぐように曲に推進力が生まれる。
ただし、Hm Hm Hm の歌い方は、清流を穏やかに漕ぐ感じ。例えば、川遊びの水切りで、石が水面を滑っていく様のスローモーション映像をイメージ。実は、すごくゆっくりのテンポ。
歌詞の入りが裏になった時も混乱しないよう、指揮は一つ振りにするかも。
- ・曲の進行：下記の通り。要は(A)(B)は 1 回だけ。

(A)→(B)→(C)歌詞 1 番～40 小節

→(C)27 小節 歌詞 2 番～36 小節、41～42 小節

→(C)27 小節 歌詞 1 番～36 小節、43～46 小節

- ・**Hm も、歌詞も、ブレスはパート内で分散させること。
一斉ブレスだと音が途切れるので NG。**

- ・35 小節「ere」の発音 エア。「アー」ではない。
- ・曲の流れをよく聞いてリズムをとらないと、小節の頭（1 拍目）が分からなくなるので注意。

- ・**付点 8 分+16 分音符の跳ねるリズムは必須！。8 分音符×2 の単調なリズムは NG。**

跳ねるリズム感を会得するまでは練習中、【敢えてエッジを効かせて跳ね】て体に覚えさせる。

「大げさに」跳ねて表現。「bring her」「all to-」「Sailing」「Mingu」「What care」など

これは、29 小節 B2（同じ音）でも音符ごとに跳ねて歌う（弧で括られているがタイではない）。

- ・**8 分の 6 のリズムをきちんと刻む。1,4 拍目にアクセントをつけて推進力つける。**

例えば、リズムが乱れ走ってしまうのは、ワンツ ツー スリー の 3 拍の中の間(ま)を保てず、ワンツ ツッスリー のように突っ込んでしまうから。拍の長さをしっかり感じ、維持することを意識して。
最後の 6 拍目が寸詰まりで短い。ゆったりと構えて次の 1 拍目にオンビートで入る。

・風の川面を、「ゆ〜ったり」進む風景が見えるテンポと歌い方で。ものすごくゆっくりで鋭さのない曲。

付点 8 分音符+16 分音符の跳ねも、走らずにゆっくりのテンポの中で刻むこと。

・2 番の歌詞

30 小節 ward は、4 分音符+8 分音符 ワー + アド。

→譜面で 1 つの単語が 2 つの音符にまたがっている箇所は、**音符の間に割り振られる母音を強調するイメージで歌う**。(他には、Sail-ing : セーリングではなく、セー+エイリング など)

31-32 小節 heather は、付点 4 分音符×2 ヘー + ザー

34-35 小節 anchor は、4 分音符+8 分音符+付点 4 分音符 アー + アン + カアー

36 小節 全パート sets はスタッカートで切る(譜面記載通り)。

最後の子音「s」を意識するとよい。ブレスするのも効果的。ただし、短すぎないように注意。

・ロングトーンでは、諦めずに母音を言い直し続ける(そうしないと音が下がりつつフェードアウトする)。

・文の切れ目でも空白をつくらない。気持ちは途切らせずブレスを短く。但し、文章の抑揚はなくさない。

<個別事項>

(A)

・全パート 静かに入る。

B1B2 メロディは 2 小節は mp で入り、8 小節〜クレッシェンドで mf にして(B)につなぐ。

(B)

・T2 ベースの完全五度の和音(Hm)を 1 パートで担うことになるのできれいな音の範囲でしっかりと音量を出して。

・T1 はメロディにタメ張るのではなく、高く遠くにスーッと聞こえてくる感じをだす。綺麗な軽快さが吉。

・B1B2 は慎重に、T2 の Hm が聴こえるまで音量を落とす。

・20 小節 T1 Let her は、レーエツ(t)ハー (付点 8 分+16 分+8 分音符の跳ねを正確に)

(C)

・全パート Hm Hm がなくなること、メロディの音のブツ切れが目立つ。

→歌詞を歌っていても、完全五度の Hm〜 がベースに流れているように意識して表現する。そのためには、パート内でブレス位置を分散させて、音が途切れないように工夫する。

(実は各パートのメロディに完全五度の和音が埋め込まれている。)

・30 小節 sea - ward - は「シー ワー アド」※アド を拍にきちんと入れる。

・T2 メロディは朗々と聴かせるように歌う。

・B1 半音のメロディ（例 29～30 小節の E と #D）は大切に正確に上げ下げする。

特に #D をきちんと半音下げることを意識。同じ音を淡々と演奏しているが、これが曲の推進力になる。推進力を落とさないつもりで飽きないように。

・B2 同じ音が続く際は、油断するとだんだん音程が下がってくるので注意。周りの音を聞きながら下がらないように。同じ音を淡々と演奏しているが、これが曲の推進力になる。推進力を落とさないつもりで飽きないように。

（DrunkenSailor や RioGrande と同様、一音ごとにしり上がりをイメージすると、維持できる）。

・38 小節で Hm の推進力を再アピールするために、40 小節の Hm と Wives の間はブレスしない。

・(Coda)45 小節～は rit. ゆっくり。ただし、ここでも付点 8 分音符+16 分音符は跳ねること。